

“鎌倉楽しむ会“2019” 目黒不動・東急大井町線の散歩



- ◆ 開催日 : 2019年10月30日(水)
- ◆ 集合場所 : JR目黒駅 中央改札口
- ◆ 集合時間 : **午前9時30分**
- ◆ 解散時間 : 14時30分頃／半蔵門線・二子玉川駅
- ◆ 散歩コース

行人坂／大円寺／目黒・雅叙園／太鼓橋／蟠竜寺／ 目黒不動 ／
成就院／九品仏（浄真寺）／満願寺／**等々力溪谷**／五島美術館／
法徳寺／行善寺／玉川大師／玉川高島屋

1) 行人坂

江戸時代は目黒不動への参詣客で賑わった坂道。寛永年間(1624～1644)、この坂の途中に出羽湯殿山行人派の寺があり、修験行者によって大日如来堂が建立されたことからこの名がついたといわれる。

また、明和九年(1772)の「行人坂の大火」はここが火元とされている。坂の途中には「江戸名所図会」にも取り上げられた「富士見茶屋」があった。ここからは過って、雪をいただいた富士山を眺望できた。

2) 大円寺



湯殿山の修験僧だった大海法印が、ここに大日如来をまつて祈願道場を開いたのがはじまりと伝えられる。

明和9年(1772)の火元は本堂と云われ、江戸の3分の一以上を焼き尽くし死者は1万4700人にもものぼる大火事であった。このため、長い間再建されず、嘉永元年(1848)に薩摩藩主島津侯らの働きかけで再興された。

本尊の木造清凉寺式釈迦如来立像は建久4年(1193)に造立され、重要文化財に指定されている。ほかに十一面観音や三面大黒天(山手七福神のひとつ)も安置されている。

境内左手には、石造の五百羅漢があり、石造では都内唯一である。「行人坂大火」の

死者を供養するために造立されたというのが通説になっている。境内右手には、西運ゆかりの阿弥陀三尊などがある。西運は、もとは駒込円林寺の寺小姓で、吉三と名乗っていたという。

吉三は、八百屋お七が恋いこがれた人と言われ、お七が処刑されたのちに僧となり、大円寺より坂下にあった明王院に入って西運と称していた。西運はお七の菩提を弔うため、目黒不動と浅草観音に「隔夜日参一万日」の願を立て、54年かけて行を成し遂げたという。

この行の途中、多くの江戸庶民から寄進された浄財で行人坂に敷石をつくり、目黒川に

がんし
雁齒橋を架けたといわれる。

3) 目黒・雅叙園



(目黒・雅叙園庭園の滝)

目黒雅叙園は「パワースポット」が集まる場所としても有名。滝からのエネルギーは癒しの効果が感じることができ、心を和ませることができるからパワースポットである、と言われています。また、風水的な位置から考え異次元につながっているからパワーをもらえる、との別の説もあります。人工滝のご利益は、ヒーリング効果、良縁、アイディアを与えてくれる等がある、と言われています。(目黒雅叙園のHPより)

(館内の見事なお飾り・調度品を楽しく見学します)

4) 太鼓橋

目黒川に架かる橋。明和6年(1769)に完成した石橋で、安藤広重の「名所江戸百景」にも描かれた。大正9年(1920)の豪雨で流され、昭和7年には鉄橋となり、現在の橋は平成3年の完成で「太鼓橋」が明記されている。

5) 蟠竜寺



参道左手に置かれている結界石は寛政7年(1709)に造立され「不許辛肉酒入門」と刻まれている。本尊の木造「阿弥陀如来座像」は平安末期から鎌倉初期の作と推定され、都の指定文化財です。境内には弁天堂があり、「岩屋の弁天さま」とよばれ、江戸の裏鬼門の鎮守としてここに祀られた。

6) 目黒不動



「泰叡山瀧泉寺」といい、上野寛永寺を本寺とする天台宗の寺院。

関東で最も古い霊場で、江戸五色不動の筆頭でもある。三代将軍家光の帰依を受けて、寛永11年（1634）には50余棟に及ぶ山岳寺院の大伽藍が完成し、江戸有数の名刹になった。壮観をきわめた堂宇は、大半を戦災で焼失してしまったが、前不動堂や勢至堂は難を逃れた。

本堂に上る石段の手前左側には、開創以来、絶えたことがないと言われる「独鈷の滝」が流れ落ちている。急な石段の「男坂」の下には家光ゆかりの「鷹居の松」がある。「女坂」の途中の石窟内には寛政8年（1796）造立の「役行者倚像」がある。本堂の裏手には天和3年（1683）に造立された「大日如来座像」が安置されている。

また、江戸三十三観音の結願の「聖観世音」が祀られている寺でもある。さらに、仁王門の左手にある池の奥には山手七福神のひとつ「恵比寿神」がまつられている。

7) 成就院



慈覚大師が開山したと伝えられる天台宗の古刹。本尊の薬師如来像は、三匹のタコが蓮華座を支えている形の珍しいもの。このため「蛸薬師」ともよばれている。

境内には「お静地蔵」とよばれる地蔵尊像があり、2代将軍秀忠の側室お静の方が、息子である保科正之の栄達をこの寺に祈願し、晴れて信州高遠城主3万石（のち会津23万石）に取り立てられた際、その御礼として奉納したものという。

8) 九品仏（浄真寺）



「九品仏」の名で知られる浄真寺は、延宝6年（1678）に奥沢城跡地に珂碩上人（かせきしょうにん）が開山となり、九品山唯在念仏院といい、浄土宗知恩院の末で増上寺の別院である。本尊は釈迦牟尼如来座像。

仁王門は寛政5年（1793）の再建。鐘楼は宝永5年（1708）に建てられ梵鐘は都指定文化財。3万6千坪の境内には本堂と三仏堂が向かい合って立っていて元禄11年（1698）に完成している。本堂は龍護殿ともいい、穢土（えど・此岸しがん）で西面建っ

ている。三仏堂は浄土（彼岸）を表し、右から中品（チュウボン）・上品（ジョウボン）・下品（ゲボン）堂で、それぞれ3体の阿弥陀如来像が安置されている。都指定文化財。

3年に一度8月16日に「お面かぶり」の行事があり、都無形民俗文化財に指定されている。

*墓地に眠る人々 ◆ 菊田一夫 ◆ 五島慶太・昇 ◆ 石川達三 など

9) 満願寺



満願寺は新義真言宗智山派で、京都智積院の末寺。本尊は弘法大師作と伝わる大日如来。扁額の「致航山」は細井広沢の筆。本堂の変額「満願寺」は息子の九皐の筆。等々力溪谷の「等々力不動尊」は当寺の末。

左は地蔵堂に祀られている「一言地蔵です」。願いを一言述べれば成就すると信仰を集めていたという。

建物は文化勲章の吉田五十八が手掛けている。

（参考）等々力溪谷



滝轟山明王院といい、満願寺の別院。溪谷の斜面に7～8世紀頃の横穴古墳が3基あり、また、不動堂の東には5～6世紀頃の御岳山古墳がある。

溪谷の至る所から水が湧き出ている不動の滝もハケからの湧水でかつては、この滝に打たれて行をする修行僧が各地から訪れていた。役の行者ゆかりの霊場とされ、不動明王堂が建てられている。

滝の上の等々力不動尊は、紀州根来寺の興教大師が神託により、この地の霊場なるを悟って堂を建立したと伝えられ、戦国時代に吉良氏が戦勝祈願所にしたという。

全長1キロにわたって高低差15mのなかを流れる矢沢川の兩岸は武蔵野の自然が色濃く残っている。

10) 五島美術館



多摩川に向かって傾斜する国分寺崖線の自然林を生かした日本庭園と高台に建つ美術館は、東急電鉄の会長であった後藤慶太が半生をかけて収集した古美術品の保存と公開を目的に昭和35年に設立された。寝殿造りの意匠を随所に取り入れた建物は、吉田五十八の設計。国宝5点、重要文化財48点を含め2千点にも及び収蔵品を持っている。庭園には見事な「こぶし」の大樹が、春には素晴らしい光景を見せる。

1 1) 法徳寺



左の写真は昭和の歌姫「江利チエミ」のモニュメント像があり、「テネシーワルツ」の歌詞が刻まれている。お墓は、「久保家」として墓所にある。

法徳寺は、室町時代後期の弘治年間（1555-58）足利義明の家臣・白井基経が開いた浄土宗寺院です。福来山と号し、本尊は阿弥陀如来です。境内にある「筆塚」は明治初期、寺子屋の師であった大塚貞三郎を偲んで、門弟一同が建立した彰徳碑である。

1 2) 行善寺



高台にあり眺めが良いことから江戸時代は、玉川八景の一つとして有名であった。

天正18年（1590）小田原北条氏の直臣・長崎伊予守重光の開基。浄土宗寺院で本尊の阿弥陀如来は鎌倉期の作。山門を入ると左に猫塚がある。三味線の皮に使った猫の供養碑で撥（バチ）の形をしている。

1 3) 玉川大師 （玉真蜜院）



弘法大師を本尊とする太子堂と地下の遍照金剛殿は、昭和9年に開基竜海阿闍梨が完成させたもの。地下霊場は本堂から5㍍の深さに巡拝通路100㍍を設け、大日如来の胎内を真っ暗闇の中で巡る形になっている。

四国八十八カ所と西国八十八カ所の霊場の大師と観音を安置、秘仏で厄除の大日如来、釈迦涅槃像、本尊で修行中の弘法大師像を巡拝修行することができる。

1 4) 玉川・高島屋



昭和44年（1969）に開店。玉川・高島屋SCの核店舗として成功し、日本初の郊外型百貨店として成功し、今日でも城南地区の基幹店舗として有名。また、世田谷・成城・田園都市に在住する有名芸能人なども多数利用し、その買い物姿をお見受けすることもあります。少しご期待！

【完】